

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290100013		
法人名	社会福祉法人 友和会		
事業所名	グループホーム ピアポート千寿苑		
所在地	千葉市中央区間屋町6-4		
自己評価作成日	平成27年1月29日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成27年2月26日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各ユニットでは、季節の飾り付けをしたり様々な行事を計画し、入居者様と一緒に明るく楽しい暮らしができるよう心がけています。併設の事業所の設備(特殊浴槽等)も使用させていただける為、ご希望があれば最期までグループホームで暮らしていただくことができます。また併設のデイサービスや特養でのレク、クラブ活動、行事等に参加できる機会もあり、これまでの趣味と合致しているものがあれば継続して楽しんでいただくことができます。近隣の保育園との交流も続けており、子供達とお散歩に行ったり、お互いに行き来して一緒に行事を楽しむ等、入居者様の楽しみとなり、明るい表情や積極的に関わる姿が見られています。また、職員それぞれが入居者様を知り、自分で考えて行動できるような取り組みもすすめ、ケアの質の向上に努めていきたいと思っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は理念である「その人らしさ」を尊重することを大切に、その意味を職員に問いかけながら共有を図っている。年間の目標も掲げており、今年は「その人の生活をよく知る」であり、利用者のその人らしさが活かされるケアサービスを目指している。地域との関係づくりにも取り組んでおり、散歩では近くのスーパーやコンビニエンスストアによく出かけている。また、近所の保育園とは運動会やクリスマス会などに招待を受けたり、ホームの焼き芋会やスイカ割りなどには園児を招くなどの交流がある。町内の祭りでは近くの模擬店に出かけ買い物など楽しむなど、地域にできる限り出かけたいたいとしている。複合施設の機能を活用しながら、利用者のできることや楽しみごとの支援に取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いつも馴染みの環境でゆったりと楽しく、その人らしい暮らしの中で、喜びと自信を育てましょう」を理念に、ユニット玄関付近に掲示し職員間の共有を図っている。理念の読み解きについての研修も行い、実践に活かせるようにした。	理念の理解を深めるため研修を行い、「その人らしさ」の意味を掘り下げている。職員は意識的に利用者に関わり、利用者一人ひとりを知ることを心がけている。また、理念を実践に活かすためフロアごとの目標も掲げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方に、地域交流室を会議の場として開放している。また、近隣のスーパーやレストラン、夏祭りに外出したり、イベント時近所のスーパーに相談させていただいている。月に数回、地域の保育園児と一緒に散歩に行ったり、イベントを行う等の交流を持ち、入居者様も喜ばれている。	近隣のスーパーやコンビニエンスストアへの買い物外や、地域の保育園児との散歩を毎週行っている。保育園の運動会などの行事は招待を受け、ホームの焼き芋会などの行事には園児を招き交流している。また、町内会に加入しており、町内の祭りには利用者に参加するほか、会合には施設内の地域交流スペースを貸し出している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所への外出、保育園児との交流を行うことで積極的に地域へ外出し、地域の方とのふれあいを通して認知症の状態の方への理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事や法改正の説明等の際に合わせて行った。なかなかご家族様の都合がつかず、今後の開催についてご家族様とも話し合いの場を設け検討し、大まかな形式がまとまってきた為、来年度より定期開催したいと思っている。	運営推進会議は民生委員や地域包括支援センター、家族5~6名の参加で実施しているが2ユニットであり、更に家族の参加を増やしたいとしている。会議では行事やホームの取り組みなども議題にして意見交換を行っている。	今後は自治会役員や近隣のホーム理解者など、多彩なメンバーの参加を期待したい。また、会議の意義や目的をメンバーで再確認し、開催方法や議題についても検討することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営や届け出等で不明な点は、その都度市の担当者にご相談させていただき解決している。また、市の方からボランティアの受け入れ等ご依頼のあった際は、積極的に受け入れるようにしている。	認定更新やおむつの代行申請などで担当窓口を訪問するほか、ホーム運営上の問題なども相談している。また、市の介護支援ボランティアの受け入れ施設として登録したり、介護相談員も受け入れている。また、管理者は市のグループホーム連絡会の役員としても活動している。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修やユニットのミーティング等で事例検討等を行い、身体拘束を行わないケアについて職員で話し合っている。2階出入口は階段が危険な為施錠しているが、1階正面玄関は開放され、出入りが自由となっている。外へ出て行ってしまう可能性のある入居者様については各事業所に資料を配布し、連絡をいただけるようにしている。	身体拘束廃止や高齢者虐待防止について毎年研修を実施しているが、座学だけでは職員に十分伝えられないとし、不適切な言動などを具体的な事例をもとに学んでいる。管理者は、不適切な言動について職員同士で注意し合えるような環境づくりに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について事業所内研修や事例検討を行い、学ぶ機会を持てるようにしている。また職員間でも口調が荒くなった際等は注意し合い、虐待の芽を摘み取れるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	数名、ご家族様より成年後見制度に関する相談があり、申請がスムーズに行えるよう取り計らった。現在は制度を利用されていないが、今後必要となる可能性のある入居者様については、ご家族様に制度についてお知らせした。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み時の見学・相談や入居前の見学・相談時、重要事項の説明時、入居時等数回にわたりご家族様とお会いし、説明・相談できる場を設けた。また契約書の改定時はご家族様に直接ご説明、または書面をやりとりし、不安解消に努めた。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部評価でのアンケート結果を職員に伝え、今後のケアの方法について検討している。また報告会にてご家族様にお集まりいただいた際お話を伺ったり、ご家族様が面会に来られた際は随時職員・管理者より近況をご報告すると共にお話を伺うようにしている。	家族の訪問が多く、その際に要望や意見を聴いている。運営推進会議にも家族の参加があり、ホームの取り組みに意見をもらっている。利用者の何気ない一言から、言葉づかいについて反省し、職員ミーティングで話し合ったこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から意見や要望等があった際には、管理者より直接理事長に話をし、理事長まで伝わる体制をとっている。また日頃から職員と積極的に話す機会を作り、意見や提案、改善策等を言いやすい雰囲気作りに努めている。	毎月の職員ミーティングは意見を聴く場となっている。また、年2回個別面談も実施し、就業状況を把握するとともに、意見を聴く機会としている。管理者は職員と会話する機会を増やすなど、風通しのいい職場づくりに努めている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標設定型の給与体系に変わり、職員が目標を持って働ける仕組み作りを進めている。職員個々の仕事に対する姿勢や努力、実績、管理者から見た勤務状況等、査定の際面談時管理者から理事長へ報告し、把握できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験や力量を把握し、必要や希望に応じ施設内外の研修に参加してもらっている。参加費用を施設が負担したり、勤務の中で参加できるようにして職員のスキルアップややりがい作りを努めている。また未経験者でも採用し、業務の中で必要な知識・技術が習得できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への訪問はできていないが、グループホーム連絡会や各種研修を通じて他施設の方と交流し、情報・意見交換を行っている。また併設事業所の職員・入居者様と一緒に行事を行ったり、ケアについて迷った時は他事業所の職員に相談する機会を設けている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人やご家族、担当していた介護支援専門員やサービス提供事業所から情報を収集し、入居前の生活の様子を知ることによって安心して生活が始められるよう配慮している。入居後すぐは職員から積極的に関わりを持ち、ご本人やご家族様からお話を聞きながら、グループホームでの生活に早く慣れていただけるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や入居前の面談時等、職員とご家族様のみでお話する機会を設け、ご家族様の心配事や要望等を話しやすい環境を作り、できるだけ分かりやすい説明を行うことで、ご家族様の不安解消に努めている。入居後もご意見やご要望等あれば遠慮なく言っただけのような声をかけ、話しやすい環境を整えるようにしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族様の希望や要望、担当していた介護支援専門員から普段の様子を聞く等し、入居後必要な生活支援を検討している。ご本人やご家族様から他のサービスを利用したいと要望があった場合には、できるだけ要望に応えられるよう他事業所との調整を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ユニットの運営にあたり、入居者様に相談したり、家事活動を一緒に行ったり、職員が日々の悩みを相談する等、支えあいながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や通院の付き添いをお願いしたり、来苑時に散歩に出かけてもらう、食事の介助をしていただく、また自宅や外食等ご家族と一緒に過ごせる場への外出支援等、職員と一緒に入居者様を支えていただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご友人に面会協力をお願いしたり、入居後間もない方には外出、外泊の協力をお願いし、馴染みの人や場所との関係が途切れないようにしている。	利用者は馴染みの美容室やデパートの地下売場などに出かけている。習い事で一緒に友人が訪ねて来ることもある。また、利用者の中には携帯電話を持つ人もおり、持たない場合は事務所の電話を取り次ぎ、家族などの関係継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、気の合う方同士で食事の席が近くなるようにする、一緒に行事に参加してもらう等、入居者様同士がコミュニケーションをとりやすいように工夫している。話すことが難しかったり、耳の遠い人でも、職員が間に入りコミュニケーションがとれるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居となる場合には、その後のご本人やご家族様の生活について相談し、必要に応じて関係機関との調整をとったり、退居後入院先の医療機関に面会に行ったりしている。亡くなった後も葬儀に参列させていただき、ご家族と故人を偲ぶ機会を持てるようにしている。		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言語での意志表示が可能な入居者様についてはよくお話を伺い、出来る限りご本人の意向に沿ったケアを提供できるようにしている。難しい入居者様については、日頃からの表情や言動、ちょっとした仕草や変化等でご本人の希望や意向を汲み取れるよう努めている。	昨年から、職員の意識を高めるために、利用者一人ひとりの事を「意識的に知る」取り組みを始めた。どう関わりどのように声かけを行ったらいいか等を職員が考え、介護計画に反映できるようにしている。また職員と一対一になる入浴時間も意向や思いを把握できる時間として活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活について、ご本人やご家族様、担当していた介護支援専門員やサービス提供事業所からお話を伺い、情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中でアセスメントを行い、現状の把握に努めている。普段と違う様子が見られた時は、連絡ノートやミーティング、毎日の申し送りを活用して、職員同士で情報を共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の処遇について、ご本人やご家族様から希望や意向を伺い、ユニット会議等で検討し介護計画に反映できるようにしている。現状にあまり変化が見られない場合もモニタリングを行い、現在行われているケアが適当かどうか、ニーズに沿ったケアが提供されているか確認をしている。	面会時に聞きとった家族の意見や、日々の生活で把握した本人の希望等を介護計画に反映している。3か月に一度モニタリングを行い、また半年に一度は介護計画を見直して現状に合った計画を作成している。ケアマネジャーはサービス内容を細かに記載したプランを作成して、統一した支援ができるように工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケース記録として個別に記録している。情報共有のツールとして使用されたり、介護計画を立てる際やモニタリングを行う際の資料として活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望により、併設施設のクラブ活動やレクリエーションの参加、訪問マッサージや歯科往診の利用、出かけた場所への外出支援等、その時々ニーズに合わせて出来る限り対応している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の保育園児との交流を持つことで、子どもや孫を育てていた頃を思い出して一緒に楽しんでいただいている。地域ボランティアの方の歌や踊りの鑑賞、また介護支援ボランティアの方や介護相談員とお話等、生活が豊かで楽しいものとなるよう心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人とご家族様で相談して決めていただいている。往診医に変更される場合は引き継ぎが円滑に行えるよう、支援している。また認知症の状態や既往症との兼ね合いを踏まえ、現状の理解を家族と共に深める為、専門医の通院が必要な入居者様には同行している。	週2回の訪問診察や看護職員により健康管理を行っている。入居前からのかかりつけ医への定期通院を希望する利用者には家族対応を依頼しているが、救急時や専門科への受診には看護師や職員が同行している。状況に応じて、訪問リハビリや訪問歯科を利用する人もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化に対する気づきや記録が不足している部分もあるが、体調の変化等に気付いた時には看護師に報告し、必要な対応について相談している。また普段から看護師による健康管理を行い、異常があれば早期に発見・対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護サマリーや地域生活連携シートを提出し、治療や看護の際に参考にさせていただいている。退院時には受け入れ状態について看護師と相談し、ご家族やソーシャルワーカーを通じ医師や看護師とも連携して、退院後の生活を支えられるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時等に重度化された場合の対応について説明し、ご意向を伺っている。体調に大きな変化があった際や看取り期となった場合には、ご家族様に現状や今後予測される症状、施設にてできること、できないことを説明し、日々の過ごし方等について具体的に話し合い、協力できるようにしている。	契約時に重度化や終末期のホームの指針を説明し、同意をもらい、その時点での希望も聞いている。その時期を迎えた場合には、医師や家族等と話し合いを持ちながら支援している。ホームとしては看取りの経験があるが、未経験の職員もいるため本年度は看護師による「看取りについて」の研修を行った。	

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ユニット会議等で急変時の対応について話をしたり、実際のケースでの検討を行った。急変時の対応の方法について知識はあるものの、実際対応する場面になると対応が難しい、といったこともあり、今後シュミレーション等も取り入れた研修を行う必要があると思われる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設事業所や宿直者と協力しながら、消防署の指導の下、定期的に災害訓練を行い、利用者と職員と一緒に参加している。毎回想定を変え、その都度対応できるよう、訓練を行っている。	併設の施設と合同で、消防署立ち会いを含め、年2回避難訓練を実施している。夜間想定訓練では利用者の誘導にかかる時間を測定した。また、1週間分の非常用食料を建物内外に用意している。	地震、津波などさまざまな災害を想定し、迅速に対応できるよう、併設施設との合同訓練の他にも、グループホーム単独で繰り返しの訓練を行うことが期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけについては人格を尊重した、また時と場合(入居者様の状況等)に応じた言葉かけを心がけているが、時折配慮に欠けてしまうことがある為、注意している。失禁等があった際には、他入居者様の目に触れないよう配慮している。	研修で、言葉遣い、声かけの仕方、接遇についてを再確認している。日常のケアの中で気づいた言葉かけは職員同士で、また管理者がその都度注意をしている。現在、職員の支援方法や言葉かけの実例をあげて、一人ひとりの人格を尊重できるような支援になっているか職員間で考えながら取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服を選んだり、日常生活の中での選択(入浴する、しない等)は、選択肢を投げかけたり、「～しますか？」等の質問の仕方をする等工夫して、ご本人に選んでいただけるようにしている。意志の表出が難しい方は、表情や反応等を確認し、気持ちを汲み取れるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常的な生活時間(起床時間や食事時間、日常の過ごし方等)は個々の入居者様に合わせられるようにしている。また、話の中から聞き取りを行ったり、前後の日々の様子や入居者様の生活歴等を知り、希望に沿った生活ができるよう心がけている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容は必ず行っており、小綺麗に保てるようにしている。また行事や外出に応じご本人らしい服装ができるよう支援したり、新しい洋服等を着ておられる時には声をかける、また希望のある方には染髪をする等、その人らしいおしゃれができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は厨房にて行われる為、配下膳や盛り付け、片付け等できる方には一緒に行っている。日常の食事については、メニューを説明しながら配膳や介助を行う等、楽しみなものとなるよう工夫している。また、イベントや行事時には特別食や外食、出前、調理レク等を行い、食に対する楽しみを持ち続けられるようにしている。	食事介助が必要な利用者が増えてきているが、できる人はおしぼりたたみ、調理補助、下膳などを職員と一緒にしている。食事は複合施設全体の厨房で調理されているが、ご飯とみそ汁はユニットごとに作っている。また、季節ごとの行事食、誕生日のケーキなども用意したり、自分たちの好きな店での外食、出前をとるなど食を楽しめるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表を確認しながら、水分を勧めたり、好きな飲み物を提供する等、水分量の確保に努めている。またご本人の状態に応じ、食事の形態や時間をずらして少しでも召し上がっていただけようとしている。また必要時や定期的に併設事業所の管理栄養士に栄養状態や食事形態について相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアをしていただけるようになっている。ご本人の状況に応じ、歯ブラシやうがい、歯磨きティッシュ等、使用物品について工夫し、口腔内の衛生が保てるよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	座位保持の可能な方はできるだけトイレで排泄していただけるようにしている。ご自分で訴えられる方はその都度、難しい方については排泄パターンや仕草等を観察し、トイレで排泄できるよう介助を行っている。排泄動作でも、ご自分でできるところはしていただけるよう、声かけや見守りを行っている。	日中はできるだけトイレでの排泄を支援し、夜間も一人ひとりの排泄パターンを把握して、個別に声かけ誘導をしている。夜間にポータブルトイレを利用する利用者には、日中は本人の目の届かない場所にポータブルトイレを移動し、トイレでの排泄を働きかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂っていただいたり、排便状況を確認し、それぞれに合った乳製品を召し上がっていただくようにしている。また、食物繊維の多い食品を食べていただいたり、便秘の際には腹部マッサージを行う、トイレの時間を調整する等し、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴表を作成し、週3回以上は入れるようスケジュールを組んではいるものの、当日のご本人の状況や希望に合わせて日にちを調整している。また時間やタイミングについてはご本人に合わせて、入浴が楽しいものとなるよう、会話を多くするよう心がけている。	基本的には週3回以上入浴できるようにしているが、無理強いをせず、本人の希望にあわせて日にちや時間帯を変え対応している。入浴をあまり好まない利用者には、言葉のかけ方を工夫したり、タイミングを変えて入浴してもらうようにし、清潔の保持に努めている。また、入浴剤を選んだり、職員との会話を楽しむなど入浴が楽しくなるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムや体調、その日の状況に応じて午睡の時間を設けたり、休む際はご本人の寝やすい体位等に気をつけている。午睡の際には居室のみでなく、リビングのソファ等でも休めるようにしている。また寝やすい環境整備として、明るさや温度、寝具等を調整するようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用について理解が不十分な部分があるものの、各利用者様の薬情報をファイルにまとめ、いつでも確認ができるようにしている。また服薬の変更時等には、看護師に状況等を報告したり、ノートに記入する等、確認や情報の共有ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯等の家事活動が一緒にできる方には手伝っていただき役割を持てるようにしている。時間のある時は散歩や体操、歌、お茶会等で気分転換できるようにしたり、好きな嗜好品を買ってきて提供する等、生活の中で楽しみが持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人で外出できる方がほとんどいない為、自由に外出することは難しいが、近所であればその日の希望によって買い物や散歩等で戸外に出られるようにしている。またご家族の協力をいただいで外出したり、入居者様の希望等を聞いて外出を企画する、公共交通機関を利用し出かける等、外出支援をしている。また定期的に地域の保育園児と交流を持つ等楽しんでいただけるようにしている。	年間計画のイベントとして、浅草や柴又など、公共交通機関を利用して出かけている。また、毎月外食に行ったり、イチゴ狩りなど、季節ごとの外出もしている。昨年度から交流が始まった近隣の保育園園児とは、週1回一緒に散歩をするようになった。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望により財布を所持されている方もおり、外出の際に使用されることもある。また大きな額であれば事務所に預けているが、可能な方については買い物の際等にご本人で支払いをしていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在日常的に電話や手紙のやりとりをされている方はいないものの、希望があれば連絡できるよう支援している。またご家族から届いたお手紙をご本人にお渡しし代読したり、いつでも見られる場所に置くようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾り付けをしたり、温度や湿度、光の入り方等に気を付け、不快のないようにしている。また清潔に保てるよう掃除をしたり、好きな音楽をかける、リビングやベランダに観葉植物や花を置く等し、居心地の良い空間作りに努めている。	リビングは採光がよいが、西日が当たる時間帯には光に配慮している。また、温度、湿度も適切に管理している。音については、食器を洗う音も気をつけるように指導するなど、利用者にとって、できるだけ不快な刺激がないように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングやセミパブに椅子やソファを置き自由に使っていただいたり、リビングの食席を決める際には入居者様同士の相性を考慮するようにしている。また気の合う入居者様同士ではお互いの居室に行き来したり、リビングでも気兼ねなくお話できる環境作りに努めている。		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が居心地よく過ごせるよう、ご自宅で慣れ親しんだ物をご持参いただいている。作り付け等で持ち込みが難しい場合には、ご家族様の写真や飾り物等をご持参いただき、安心して過ごせるようにしている。また私物の掃除や整頓等で良い状態を保てるよう心がけ、居心地よく過ごせるよう努めている。	入居前には馴染みの物を持ってきてもらうよう説明をしており、各居室とも使い慣れた家具や置物などを置いて、その人らしい居室になっている。季節感のある装飾については、利用者と相談しながら入れ替える様に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	館内はバリアフリーで、車椅子でも生活しやすいよう作られている。入居者様の「できること」を把握し、ご自身でできるよう促したり、整理整頓して障害となるものは置かない、トイレや居室等分かりやすい掲示を心がける等工夫している。		